

## 2018年度2月17日保護者会議事録（改善議題のみ）

### （発表議題）

2018年度4月からイエローカード導入のトライアルについて

**イエローカードの導入は11月15日の保護者会ですでに承認済みです。**

＊イエローカード制度の最大目的＊

- ・センター内での事故を防ぎ、皆の安全を確保する。
- ・他人に迷惑がかかるような言動行動を減らし、先生や周りの生徒にリスペクトを持って、2時間の活動をより有意義なものにする。

＊イエローカードの発令方法＊

生徒は、担任の先生が定める”クラスでの約束事”に従い活動することを大前提にする。その約束が守れず、同じ注意を2度されても改善が見られなかった場合、3度目の注意と同時に担任の先生より発令される。

＊イエローカードが発令される主な言動・行動の例＊

クラスでの約束事は、学年やクラスによって内容の表記や詳細に違いがあるが、以下の5項目は全学年共通してクラスの約束事に追加してもらう。イエローカードはクラスの決まり事に沿って行う。例として20項目あるクラスはその20項目がイエローカードの対象となる。（次週の教員会議で提案予定です。）

- 1 日本語センターでは日本語を話そう ・先生の話は静かにしっかり聞こう
- 2 丁寧な言葉使いで話そう（特に高学年） ・勝手に退席、退室しない
- 3 廊下や教室を走らない
- 4 お友達に迷惑をかけない（暴力、邪魔をする、不快な言葉を投げかける、等）
- 5 センターの活動に関係ないものを教室に持ち込まない（おもちゃ、ゲーム、カード、おやつ（児童）、携帯電話、を含む）

＊発令後の流れ＊

- 1、1枚目は先生から生徒へ直接指導と同時に保護者並びに役員へもメールで連絡される。（経過を見る。保護者の教室同席が必要かどうかの判断は教員に一任する）
- 2、2枚目のイエローカードで、教員、保護者、監査員\*で話し合いの場を持つ。（必要に応じて、監査員が教室に入って様子を見る）
- 3、3枚目のカードが発令された場合、その学期分は一時自主休講となる。返金は不可。
- 4、新学期開校時に、本人、保護者、教員、役員で面会して復講。監査員\*とは、現場状況を公平に監査・審判する目的で、例えば元教員経験者などに第3者の立場で視察・監査のボランティア協力を要請したいと考えるものである。

問題を先延ばしにせず、最初の1枚目のイエロカードはなるべく早く、先生からだしてもらいにより、保護者や生徒に早い段階で気づいてもらい対応してもらいたいと考える。同じ事を一日で3回以上先生から注意をされた場合、一日で一枚目のイエローカードがでることになる

**(保護者)** 1日で3枚のイエロカードがでることもありうるんですか？

**(改善)** 教員経験の立場から1学期は基本スムーズ（生徒もおとなしくして）2学期から問題が明るみにでることが多い。1学期から2枚目がでるのはよほどのケースだと思う。

**(保護者)** 毎回問題の生徒の保護者がクラスに入るほうがいいのでは？

**(改善)** 1枚名から2枚目の対応は教員に一任する。必ずしも保護者が教室に入ることがその状況に良いとは限らないため、保護者もしくは第三者（教員経験者やボランティア保護者など）という形をとることで、その状況を柔軟に対応する。

**(保護者)** 自主休講ですか？

**(改善)** 自主休講ではなくその学期分は強制休講になります。その場合その学期の授業料は返金されません。

**(役員)** 保護者としては子供が楽しくセンターに通ってくればいいという思いでした。しかし、実際、先生方が現場で苦労していることを知りました。イエロカードの最初の一枚がでることによって、保護者や生徒が早い段階で気づき、考え、現状を良くすることができると思います。

**(改善)** センターの経営上、先生には、決定権はありません。すべて、保護者会で承認を得なければなりません。なかなか現場の意見が保護者に届かず、現場の状況が変わらないことに先生方も残念に思われています。

現場の意見として、センターはフレンドリーな場です。最近の生徒は日本に行く機会が多いこともあり、上手に日本語を話します。しかし、先生への尊敬というよりはお友達感覚で接している感じがします。日本のドラマや漫画の影響か、先生に、「きみ」や「おまえ」と呼んだり、先生が話している時に私語をやめない。注意されても平気”などです。現地の学校でも、マダムで呼ぶ所は少ないかもしれないですし、土地柄としても全体的にかなりカジュアルなので、子供達にそういう感覚が身につけてないのは仕方ないことかもしれませんが、センターが日本の文化継承を1つの目的とするならば、その敬う精神は教えるべきです。ここでは、そうしないといけないよ、と思います。またセンターの活動上、2時間すわって生徒が先生の準備された内容をやるのも難しいかもしれません。英語やフランス語ではたくさん話せるが、日本語の単語力がないため、発言が滞ることも多くあります。

その現場の状況をまとめる難しさを知り、日本語単語力の向上、先生への尊敬の念など、ご家庭でサポートしていただければと思います。